## 神社本庁

### 安倍氏喪失で名実共に政治力衰退か

# 神政連会長親戚が巨額横領

**全国の神社を包括し、日本最大の信者数を誇る神社本庁。その〝政治部隊〟といえる神道政治連盟が揺らいでいる。最大の後ろ盾を失っただけでなく、新たな醜聞も起きているからだ。**

醜聞と内紛が続く神社本庁。「一心同体」とされる神政連と共に巨額横領事件が新たな頭痛の種に

DW

安倍晋三元首相襲撃事件が起きた昨年7月8日は、「神道政治連盟（神政連）」にとって、最大の〝後ろ盾〟を失った日でもあった。

神政連とは1969年に設立された、全国8万社近い神社を包括する宗教法人「神社本庁」を母体とする政治団体だ。その本部は神社本庁内にあり、役職員には神社本庁の役員予備軍が名を連ねていることからも、神政連と神社本庁は〝一心同体〟の組織といえる。

その活動を支持する国会議員連盟「神道政治連盟国会議員懇談会」には、自民党を中心に273人の衆参国会議員が所属（2023年7月時点）。昨年6月、社会問題になったLGBTQ（性的マイノリティー）への差別的な内容が掲載された冊子を神政連が配布した場が、同議員懇談会だ。

この議員懇談会の会長であったのが、安倍元首相、その人だ。

そして〝神社界のドン〟といわれる打田文博・神政連会長は、初めて神政連会長に上り詰めた16年の自らの会長就任を祝う会で、安倍元首相とのツーショット写真をでかでかと掲載した冊子を配るほど、安倍元首相との蜜月ぶりを誇示してきた人物だ。

そんな背景から、近年、自公連立を支える〝宗教勢力〟として、神政連の名が公明党の支持団体である創価学会と共に、メディアなどでたびたび取り上げられてきた。

だが、実際の政治力はというと、昔こそ「元号法制定」（79年）などで一定の成果を収めてきたものの、「今は見る影もなく、政治に大した影響力があるわけではない。打田氏と安倍元首相の関係は、神政連の主張を実現するためというより、内輪の権力維持のための権威付けに利用されていたイメージが強い」と、複数の神社本庁・神政連関係者は口をそろえる。安倍元首相を失ったことで、神政連は名実共に政治力を失いつつあるというわけだ。

そうでなくても近年は、前述のLGBTQの一件以外にも騒動続きだ。

20年には、神政連の実務トップである事務局長を務める神社本庁幹部と、その女性部下の不倫疑惑が発覚。さらに同年、その女性部下がストーカー被害に遭ったとして刑事告訴しようとしていた別の男性――、当時の神政連総務会長が警察に呼ばれた後に自死するという痛ましい事態まで起きた。

そして昨年末、神政連に新たな醜聞が加わった。当時、神社本庁傘下の東京都神社庁の幹部職員で、都神政連事務局長の要職にあった人物の巨額横領事件の発覚だ。

三笠智春氏と丸川珠代議員。三笠氏Facebookより

### 東京都神政連幹部の巨額横領事件が神社界トップを直撃

「おめでとうございます（^ω^）」

右の写真を見てほしい。19年7月の参院選東京選挙区で3選を果たした丸川珠代議員（自民党）が当選後に固い握手を交わしている人物こそ、その横領事件を起こした三笠智春・御穂神社宮司だ。

これが単なる一幹部職員の不祥事にとどまらない理由は、三笠氏が打田会長の義理のおいという親戚関係にあり、また、打田氏の盟友で神社本庁総長の田中恆清氏の後継者候補で神社本庁常務理事の小野貴嗣・都神社庁長の側近として、知られていた人物だからだ。

神社本庁や神政連関係者によれば、三笠氏は20～22年、都神社庁の口座や、三笠氏が事務局長を務めていた「東京都神職教誨師会」の口座から、およそ3000万円を自身の口座に移して着服。発覚から半年後の5月に都神社庁が赤坂警察署に被害届を提出し、受理されている。

なお昨年12月、内部告発によって横領が発覚した際、小野都神社庁長らは「早く返金させ、理事会には報告だけで済ませよう」「三笠氏に辞められたら困る」などとして、擁護していたという。また、三笠氏の父親が弁済したことで当初は懲戒処分ではなく普通解雇とされたが、甘い対応に批判の声が上がった結果、懲戒解雇になった。

横領発覚後、三笠氏が都神社庁に提出した「事情説明書」には、横領した金は、生活費や税金の支払い、そして、妻との度重なる口論によるストレスで競馬に使っていたことが書かれている。

だが、奇妙なことに、横領の日付は、神社本庁や都神社庁の幹部が一堂に会するイベント前後に集中している（左表参照）。「なぜそんな日に合わせるかのように横領するのか、理解に苦しむ」と、神社本庁関係者は首をかしげる。

目下、神社界を取り巻く状況は混迷の一途をたどる。

昨年5月、醜聞続きの田中体制を一掃すべく、神社本庁の代表者、鷹司尚武統理が田中氏ではなく別の宮司を新総長に指名。だが、田中氏側が反発したことで訴訟に発展。昨年12月、新総長に指名された宮司の地位確認訴訟は東京地裁から却下され、最高裁に上告中だ。

片や、あれほど安倍元首相との親密な関係を誇示していた神政連の方は、今年6月に安倍元首相の慰霊祭・懇親会を主催した以外は何ら存在感を示せていない。

神社本庁、神政連のトップに絡む横領事件が今後、どう影響していくのか予断を許さない。

### 横領日は神社本庁・都神社庁のイベント前後に集中

**神道政治連盟会長義甥の都神政連幹部による横領事件の流れ**

| | 横領日 | 横領額 | 横領日前後の神社本庁・東京都神社庁のイベント |
|---|---|---|---|
| 2020年 | 2月25日 | 25万円 | 当日：神社本庁役員会・人事委員会 |
| | 5月14日 | 100万円 | ― |
| | 7月29日 | 25万円 | ― |
| 21年 | 3月16日 | 30万円 | 当日：本庁人事委員会 |
| | 5月6日 | 100万円 | 翌日：東京都神社庁正副庁長会 |
| | 同19日 | 40万円 | 翌日：都神社庁正副庁長会 |
| | 7月5日 | 40万円 | 翌日：都神社庁正副庁長会 |
| | 10月25日 | 15万円 | 翌々日：都神社庁正副庁長会 |
| | 12月28日 | 15万円 | ― |
| 22年 | 2月9日 | 25万円 | 当日：本庁役員会・人事委員会 |
| | 3月7日 | 25万円 | ― |
| | 同9日 | 15万円 | 翌々日：都神社庁次期役員予定者会議 |
| | 同22日 | 15万円 | 翌々日：都神社庁正副庁長会 |
| | 4月8日 | 145万円 | 当日：都神社庁正副庁長会 |
| | 5月6日 | 20万円 | 土日を挟む4日後の火曜：都神社庁正副庁長会 |
| | 同20日 | 30万円 | 土日を挟む3日後の月曜：本庁役員会 |
| | 6月3日 | 30万円 | 土日を挟む4日後の火曜：都神社庁正副庁長会 |
| | 同29日 | 30万円 | ― |
| | 7月6日 | 400万円 | 翌々日：都神社庁正副庁長会 |
| | 同25日 | 30万円 | 翌々日：都神社庁庁舎建設委員会 |
| | 同27日 | 100万円 | 当日：都神社庁庁舎建設委員会 |
| | 8月8日 | 100万円 | ― |
| | 同18日 | 30万円 | ― |
| | 同23日 | 100万円 | 当日：都神社庁正副庁長会・庁舎建設委員会 |
| | 9月5日 | 25万円 | 翌日：都神社庁正副庁長会 |
| | 同8日 | 100万円 | 前日：本庁役員会・常務理事会 |
| | 同20日 | 100万円 | ― |
| | 同26日 | 25万円 | ― |
| | 10月3日 | 150万円 | 当日：都神社庁正副庁長会 |
| | 同7日 | 30万円 | 前日：本庁総代会大会 |
| | 同12日 | 100万円 | 前日：本庁役員会・常務理事会 |
| | 同20日 | 100万円 | ― |
| | 同28日 | 115万円 | 当日：本庁関係者大会／前日：都神社庁正副庁長会 |
| | 11月7日 | 100万円 | 翌日：都神社庁正副庁長会 |
| | 同8日 | 25万円 | 当日：都神社庁正副庁長会 |
| | 同10日 | 100万円 | 前日：都神社庁庁舎建設委員会・同幹事会 |
| | 同16日 | 100万円 | ― |
| | 同24日 | 25万円 | 当日：都神社庁正副庁長会 |
| | 12月6日 | 100万円 | 翌日：都神社庁支部長会 |
| | 同15日 | 横領が発覚 | |

＊取材を基にダイヤモンド編集部作成

### 神社本庁

JIJI

| | |
|---|---|
| 公称信者数 | 7837万2288人 |
| 創設年 | 1946年 |
| 系統 | 神道 |
| 創始者 | ― |
| 現代表 | 鷹司尚武統理（右写真） |
| 本部所在地 | 東京都渋谷区代々木 |